

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は 105 ~ 106 円台でもみ合いか

[ 2月22日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		2月22日~2月26日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	105.40	106.43(26)	104.92(23)	106.18	+0.73
ユーロ・ドル	1.2115	1.2243(25)	1.2091(22)	1.2158	+0.0039
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,966.01	-1270.08	日本10年債利回り	0.096	+0.028
ダウ平均株価	31,402.01	-92.31	米10年債利回り	1.520	+0.184
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 28日 中国2月製造業購買担当景気指数
- 1日 中国2月財新製造業購買担当景気指数
- スイス1月小売売上高
- 独2月消費者物価指数
- カナダ第4四半期経常収支
- 米2月ISM製造業景況指数、米1月建設支出
- 2日 日本1月雇用統計、日本1月有効求人倍率
- 豪第4四半期経常収支、豪1月住宅建設許可件数
- 豪中銀(RBA)政策金利
- 独2月雇用統計
- ユーロ圏2月消費者物価指数
- カナダ第4四半期国内総生産(GDP)
- 3日 豪第4四半期国内総生産(GDP)
- スイス2月消費者物価指数
- ユーロ圏1月生産者物価指数
- 米2月ADP雇用統計
- 米2月ISM非製造業景況指数
- 米地区連銀経済報告(ページブック)
- 4日 豪1月小売売上高、豪1月貿易収支
- ユーロ圏1月雇用統計、ユーロ圏1月小売売上高指数
- 米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数
- 米1月製造業受注
- 5日 独1月製造業受注指数
- カナダ1月貿易収支
- 米2月雇用統計、米1月貿易収支
- カナダ2月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】堅調な株価がドル売りの動きにつながりにくくなっており、ドル円は米長期金利の動向に左右されやすい展開が続きそうだ。良好な米経済指標が相次ぐようだと、一段の米長期金利の上昇につながり、ドル円は底堅い動きを続けるとした。

【米長期金利の上昇傾向が続く】

23日に米上院銀行委員会でパウエルFRB議長の議会証言が行われた。議長は「年内の見直し改善が示唆されている」としたうえで、「目標に向け長い道のり。一段の進展には一定の時間がかかる」との従来の認識を繰り返した。市場が注目していた米長期金利上昇については「成長とインフレの見直しによるもの」と述べるにとどまってお

り、特別な警戒感は示さなかった。

翌24日は米下院金融サービス委員会でパウエルF R B議長の議会証言が行われた。質疑応答では「労働市場には多くのスラックがあり、完全雇用には程遠い」とのハト派的な認識を示した。なお、「2%のインフレ目標達成には3年以上かかる可能性がある」との見解を示した。金融緩和が長期化するとの見通しが再確認されて、ドルが売られるとともに米国株は上昇した。この日のNYダウは424ドル高となり、過去最高値を更新した。

米国での大型の追加経済対策、ワクチンの普及による経済活動正常化への期待感、インフレ期待の高まりなどを背景に米長期金利は上昇傾向にある。米テキサス州を襲った寒波の影響でNY原油は上昇基調で推移しており、原油高もインフレ期待の高まりの一因となっている。

米10年物国債利回りは25日に一時1.6%台まで上昇した。短期間での米長期金利の上昇を受けて、警戒感が広がっており、25日の米国株は急落した。ただ、米金融当局者からは米長期金利の上昇をけん制するような発言は特に出していない。

25日には、ブロード米セントルイス地区連銀総裁が、「今四半期以降、GDPは急上昇する可能性」「見通しを考慮すれば、10年債利回りの上昇は適切」などと述べた。ポスティック米アトランタ地区連銀総裁は「現時点では利回りに対応する必要はない」などと述べており、米長期金利の上昇をけん制する動きはみられない。

米長期金利の上昇傾向はドル円の支援材料となりそうだ。3月1日以降は米雇用統計など注目度の高い経済指標が相次ぐ。これらの経済指標が予想から上振れするようだと米長期金利の上昇につながり、ドル円のサポート要因となりそうだ。

ドル円は2月23日には104.92付近まで下落した。25日には106.40近辺まで上昇して、その後は106円近辺で推移している。ドル円は底堅い動きを見せているものの、106円台を固めてさらに大きく上値を追うような力強さはなく、上下に振幅を見せながら105~106円台でもみ合いを続けるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、104.90~106.75円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、1日に米2月ISM製造業景況指数、米1月建設支出、2日に日本1月雇用統計、日本1月有効求人倍率、3日に米2月ADP雇用統計、米2月ISM非製造業景況指数、米地区連銀経済報告（ページブック）、4日に米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数、米1月製造業受注、5日に米2月雇用統計、米1月貿易収支などがある。

【ポンドドルやポンド円は高値圏でもみ合いか】

ワクチン接種が進む英国では、今後の景気回復への期待感や英中銀（BOE）によるマイナス金利の導入期待の後退などから、対ドル、対ユーロ、対円でポンドが買われてきた。そうした中、22日に英国のジョンソン首相は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で実施しているロックダウン（都市封鎖）を3月8日から段階的に緩和すると発表した。英国経済の正常化への期待が一段と広がり、ポンドは上昇基調で推移してきた。ただ、さすがに大きく上昇してきたことで、上げ一服となっている。

ユーロドルはドル売りの影響もあり、堅調な推移を見せている。対ポンドでは軟調な動きを見せているものの、対ドルや対円では上昇基調で推移している。19日発表のドイツやユーロ圏の製造業購買担当者景気指数（PMI）が予想を上回る好結果となり、22日発表のドイツのIFO景況感指数、24日発表のドイツの昨年第4四半期の国内総生産（GDP）が予想から上振れしたことなどもユーロ買いにつながった。

ポンドドルやポンド円は右上がりの上昇トレンドを描いてきたものの、高値圏で上げ一服となっている。過熱感が高まっていたこともあり、高値圏でもみ合いとなりそうだ。目先の予想レンジは、ポンドドルが1.3800~1.4250、ポンド円は147.00~152.00円。

ユーロドルは緩やかな上昇を続けてきた。17日の1.2020近辺から上昇基調で推移しており、1.22台前半まで上昇した後は、上げ一服となっている。上下に振幅しながら徐々に上値を追う展開となりそうだ。ユーロ円は円売りの動きもあって、127円台半ばから後半でのみみ合いから129円台後半まで上昇した。上値余地はありとみられるが、130円超で上値を抑えられやすいとみられる。目先の予想レンジは、ユーロドルが1.2050～1.2350ドル、ユーロ円は127.50～130.50円。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、28日に中国2月製造業購買担当景気指数、3月1日に中国2月財新製造業購買担当景気指数、スイス1月小売売上高、独2月消費者物価指数、カナダ第4四半期経常収支、2日に豪第4四半期経常収支、豪1月住宅建設許可件数、豪中銀（RBA）政策金利、独2月雇用統計、ユーロ圏2月消費者物価指数、カナダ第4四半期国内総生産（GDP）、3日に豪第4四半期国内総生産（GDP）、スイス2月消費者物価指数、ユーロ圏1月生産者物価指数、4日に豪1月小売売上高、豪1月貿易収支、ユーロ圏1月雇用統計、ユーロ圏1月小売売上高指数、5日に独1月製造業受注指数、カナダ1月貿易収支、カナダ2月IVEY購買部協会指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。